

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	:	酸化ほう素
SDS コード	:	A4-18
供給者の会社名称	:	
林純薬工業株式会社		
住所	:	大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号
電話番号	:	06-6910-7305
E-mail	:	shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL	:	https://direct.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	:	06-6910-7305
推奨用途	:	試験研究用
使用上の制限	:	人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高圧ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分に該当しない	
	可燃性固体	区分に該当しない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	区分に該当しない	
	自己発熱性化学品	区分に該当しない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	分類できない	
	有機過氧化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	分類できない	
	健康有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
		急性毒性 (経皮)	分類できない
		急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 蒸気)		区分に該当しない	
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)		分類できない	
皮膚腐食性/刺激性		区分に該当しない	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分 2A	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		分類できない	
生殖細胞変異原性		分類できない	
発がん性		分類できない	
生殖毒性		区分 1B	

環境有害性	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (気道刺激性)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示
(GHS JP)



GHS07



GHS08

注意喚起語 (GHS JP)	: 危険
危険有害性 (GHS JP)	: 強い眼刺激 (H319) 呼吸器への刺激のおそれ (H335) 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (H360)
注意書き (GHS JP)	
安全対策	: 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201) 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202) 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。(P261) 取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264) 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。(P271) 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
応急措置	: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 (P304+P340) 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。 (P308+P313) 気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312) 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。(P337+P313)
保管	: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233) 施錠して保管すること。(P405)
廃棄	: 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。 (P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
別名	: 三酸化二ほう素、無水ほう酸

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
酸化ほう素	≥85.0%	B2O3	(1)-71,(9)- 2403	既存化学物質	1303-86-2

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。

上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 直ちに医師に診断/手当てを受けること。
--------	--

- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
多量の水と石鹼で優しく洗うこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい
て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 周辺火災に応じて、適切な消火剤を使用する。
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 火災危険性 : この製品自体は不燃性である。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に
消火する。
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な
保護具を着用し、風下で作業行わない。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収
し、安全な場所に移動する。
回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業
する。
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十
分にする。
- 安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗いうがいをする事。
作業所の十分な換気を確保する。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
- 接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。
- 保管 : 施錠して保管すること。
直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠
ざげる。

安全な容器包装材料	: 気密容器。
技術的対策	: 適用法令を遵守する。
保管温度	: 冷暗所保管

8. ばく露防止及び保護措置

ばく露限界値	
酸化ほう素	
許容濃度(ACGIH)	TWA 10 mg/m ³ , STEL -

設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

皮膚及び身体の保護具	: 保護服、保護長靴、保護前掛け
眼の保護具	: 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
手の保護具	: 保護手袋
呼吸用保護具	: 防塵マスク

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 固体
外観	: ガラス状の小片 ~ 粉末
色	: 無色 ~ 白色
臭い	: データなし
pH	: データなし
融点	: 450 ° C
凝固点	: データなし
沸点	: ≥ 1860 ° C
引火点	: 引火せず
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
可燃性	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
密度	: 1.85 g/cm ³
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: エタノールに可溶。グリセリンに可溶。 水: 3.2 % (20°C)
n-オクタノール/水分配係数(Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の取扱い条件では安定である。吸湿性がある。
危険有害反応可能性	: 吸湿性で水と徐々に反応し、ほう酸を生成する。湿った空気の下で、金属に対して腐食性を示す。ふっ素と激しく反応し、BF ₃ と酸素を発生する。アルカリ金属、マグネシウムなどで還元される。
避けるべき条件	: 日光、熱、湿気。ふっ素、アルカリ金属、マグネシウム、還元剤との接触。
混触危険物質	: ふっ素、アルカリ金属、マグネシウム、還元剤
危険有害な分解生成物	: ほう素化合物

11. 有害性情報

酸化ほう素	
急性毒性(経口)	マウスの LD50 値として、3,163 mg/kg (ACGIH (7th, 2001)、HSDB (Access on May 2017)) との報告に基づき、区分外(国連分類基準の区分 5)とした。ガイダンスの改訂に伴い、区分を見直した。
急性毒性(経皮)	データ不足のため分類できない。
急性毒性(吸入:気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	GHS の定義における固体である。
急性毒性(吸入:粉末)	データ不足のため分類できない。
急性毒性(吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	ウサギで紅斑が出現したが、数日後に消失した (ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 13 (1999)、ECETOC TR63 (1995)) との記載から軽度の刺激性と判断し、区分外(国連分類基準の区分 3)とした。ガイダンスの改訂に伴い、区分を見直した。
眼に対する重篤な損傷又は刺激性	本物質を適用した動物に対して、結膜に影響がみられたとの記載がある (ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 13 (1999))。また、本物質とホウ酸にばく露された 113 人の作業者が、対照群に比べて顕著に眼の刺激を訴えたとの報告があることから (ACGIH (7th, 2001)、区分 2A)とした。
呼吸器感受性	データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。なお、ホウ酸 (CAS 番号 10043-35-3) の分類結果(分類できない)を参照のこと。
発がん性	本物質自体のデータはないが、無機ホウ素化合物の情報が利用可能と考えられる。無機ホウ酸塩化合物(無水ホウ酸ナトリウム、ホウ酸ナトリウム五水和物、ホウ酸ナトリウム十水和物、ホウ酸)に対し、ACGIH は A4 に分類している (ACGIH (7th, 2005))。よって、分類できないとした。
生殖毒性	本物質自体の生殖毒性に関する情報はないが、ホウ素化合物としてホウ酸 (CAS 番号 10043-35-3) 及びホウ砂 (Na ₂ B ₄ O ₇ ·10H ₂ O, CAS 番号 1303-96-4) の情報が利用可能と考えられる。すなわち、マウスにホウ酸を、ラットにホウ酸又はホウ砂を混餌投与した生殖毒性試験で、親動物に一般毒性影響がみられない用量で受精能の低下による不妊が認められた。交差交配試験の結果、マウスでは雄の受精能低下が不妊の原因であったが、ラットでは投与群の雌を対照群の雄と交配させた場合にも完全不妊がみられた (NITE 初期リスク評価書 (2008)、ATSDR (2010))。一方、妊娠ラット又は妊娠マウスの器官形成期にホウ酸を混餌投与した複数の発生毒性試験において、母動物毒性(体重増加抑制、摂餌量減少など)発現量で胎児に奇形発生(第 13 肋骨の欠損・短縮、側脳室の拡張など)の増加、胎児死亡率、新生児死亡率の増加がみられた (NITE 初期リスク評価書 (2008)、ATSDR (2010))。妊娠ウサギの器官形成期にホウ酸を強制経口投与した試験でも母動物に体重の低下がみられる用量で心血管系奇形の増加及び胎児死亡率の増加が報告されている (NITE 初期リスク評価書 (2008))。以上、本物質もホウ素化合物として、ホウ酸・ホウ砂と同様の生殖発生毒性を示す可能性が考えられ、区分 1B とした。なお、EU も本物質を Repr. 1B に分類している (ECHA CL Inventory (Access on May 2017))。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトでの本物質の単回ばく露の情報はないが、無機ホウ素化合物としてホウ酸 ((CAS 番号 10043-35-3) 及びホウ砂 (Na ₂ B ₄ O ₇ ·10H ₂ O, CAS 番号 1303-96-4) の情報が利用可能と考えられる。ボランティアによるホウ酸またはホウ砂粉じんの単回吸入ばく露試験で、対照群と比較して鼻汁分泌の有意な増加がみられたとの報告がある (ACGIH (7th, 2005)、ATSDR (2010)、DFGOT (2013) (Access on May 2017))。したがって区分 3 (気道刺激性)とした。なお、ばく露回数不明であるが、米国のホウ酸塩製造工場で本物質あるいはホウ酸のばく露を受けた労働者に対する問診において眼の刺激、呼吸器の刺激(鼻、口、喉の乾燥、喉の痛み、咳等)が報告されている (ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 13 (1999))。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトについては、本物質あるいはホウ酸のばく露を受けた労働者に対する問診において眼の刺激、呼吸器の刺激(鼻、口、喉の乾燥、喉の痛み、咳等)が報告されている (ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 13 (1999))。実験動物では、ラットを用いた 10~24 週間吸入毒性試験 (6 時間/日、5 日/週)において、区分 2 のガイダンス値の範囲を超える 470 mg/m ³ (ガイダンス値換算: 0.37 mg/L) で影響がみられておらず、イヌを用いた 23 週間吸入毒性試験 (6 時間/日、5 日/週)において、区分 2 のガイダンス値の範囲内である 57 mg/m ³ (ガイダンス値換算: 0.04 mg/L) で影響はみられていない

酸化ほう素	
	(ATSDR (2010)、PATTY (6th, 2012)、環境省リスク評価第 14 巻 (2016))。このほか、ラットに 10%の本物質水懸濁液を 3 週間強制経口投与した試験で、区分 2 のガイダンス値の範囲である 500 mg/kg/day (90 日換算値: 83 mg/kg/day) で影響がみられていないとの報告がある (ACGIH (7th, 2001)、Wilding JL et al. (1959) The toxicity of boron oxide. Am Ind Hyg Assoc J. 20: 284-289.) この報告は、試験条件等が十分でないことから分類には用いなかった。以上、ヒトの呼吸器への影響は急性によるものか反復によるものか不明であること、問診によることから反復ばく露の標的臓器の根拠とするには不十分と考えられる。また、ラットの試験では区分外に相当するが、イヌの試験では最高用量群が区分 2 の上限未満であり、区分 2 の上限までの影響は分からない。したがって、区分外とできず分類できないとした。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

酸化ほう素	
水生環境有害性 短期(急性)	藻類(Scenedesmus subspicatus)72 時間 EC50(生長阻害)= 109 mg/L[34 mgB/L 換算値](WHO EHC :1998)、甲殻類(アミ)96 時間 LC50 = 238 mg/L[73.79 mgB/L 換算値](NITE 初期リスク評価書:2008)、魚類(Xyrauchen texanus)96 時間 LC50 = 750 mg/L[233 mgB/L 換算値](WHO EHC:1998)であることから、区分外とした。なお、対象物質は水中においてほう酸に加水分解することから、分類にはほう酸のデータを使用した(環境省環境リスク評価(第 14 巻):2016)。
水生環境有害性 長期(慢性)	金属塩の水中での挙動は不明であるが、対水溶解度が 22,000 mg/L であり、藻類(Scenedesmus subspicatus)の 72 時間 EC10(生長阻害)= 77 mg/L[24 mgB/L 換算値](WHO EHC:1998)、甲殻類(オオミジンコ)の 21 日間 NOEC(繁殖,成長)= 19 mg/L[6 mgB/L 換算値](NITE 初期リスク評価書:2008)、魚類(ニジマス)の 87 日間 NOEC(生存率)= 6.8 mg/L[2.1 mgB/L 換算値](NITE 初期リスク評価書:2008)であることから、区分外とした。なお、対象物質は水中においてほう酸に加水分解することから、分類にはほう酸のデータを使用した(環境省環境リスク評価(第 14 巻):2016)。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送(IMDG)

- 国連番号 (IMDG) : 非該当
正式品名 (IMDG) : 非該当
容器等級(IMDG) : 非該当
輸送危険物分類 (IMDG) : 非該当

航空輸送(IATA)

- 国連番号 (IATA) : 非該当
正式品名 (IATA) : 非該当
容器等級 (IATA) : 非該当
輸送危険物分類 (IATA) : 非該当

海洋汚染物質	: 非該当
国内規制	
海上規制情報	: 非該当
航空規制情報	: 非該当
特別な輸送上の注意	: 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法	: 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9) 三酸化二ほう素(政令番号: 196)
毒物及び劇物取締法	: 非該当
水質汚濁防止法	: 有害物質(法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条)
消防法	: 非該当
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中央環境審議会第9次答申)
外国為替及び外国貿易法	: 輸出貿易管理令別表第1の16の項
水道法	: 有害物質(法第4条第2項)、水質基準(平15省令101号)
下水道法	: 水質基準物質(法第12条の2第2項、施行令第9条の4)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	: 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) ほう素化合物(政令番号: 405) ほう素として(31%) 【改正後 令和5年4月1日以降】 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) ほう素化合物(管理番号: 405) ほう素として(31%)
土壌汚染対策法	: 特定有害物質(法第2条第1項、施行令第1条)

16. その他の情報

参考文献	: 17423 の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) ERG2020 版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)
その他の情報	: この SDS は林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させていただきます。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。